

天文グループ活動報告

若宮 崇令* 渡辺 真由子*

1 はじめに

第2期市民研究員養成講座で新たに発足した天文グループは2年目の活動を終了しようとしている。受講メンバーは高校生、社会人、リタイヤされた方と年齢はまちまちの初年度から継続している17名である。天文グループは博物館の天文事業に有機的にかかわってくれる市民のグループを目指している。初年度の活動は毎月1回の例会・学習会、毎月1回の天体観望会を通じて天文・宇宙への学習を深めてもらうものであった。年度末には博物館で活動する市民の活動内容を紹介する「活動発表展」で天文グループの活動内容を紹介し、展示会最終日の「イベントデー」に天文グループが制作した3本のプラネタリウム番組を、天文グループの投影解説で公開し、多くの市民に観覧してもらった。今年度の活動は前年度の活動を踏襲しつつ厚みを増すものになった。毎月1回の例会・学習会では昨年度同様、博物館担当者によるレクチャーと、課題に対して調べてくる担当者を決め、その担当者がレポートするというゼミナール形式の勉強会にした。この例会・学習会を通して全体進捗の足並みをそろえ。昨年度天文グループがサポートした観望会の評判がよく、今年度は定員20名で募集して実施している観望会の参加者は毎回満員になり、時には倍くらいの参加者があったこともあった。また、10月からの毎月第1日曜の午前中、青空の中に沈んでいる「昼の星を見る会」を天文グループが主体になり実施し好評であった。観望会は宵の星を対象にしたものと昼間の星を対象にした2種になった。

また、プラネタリウムは11月26日に開催された「茅野市サイエンスフェスタ」に天文グループがチームを組んで制作した「今宵の星空」というテーマは共通だが、切り口の違う4本の番組を順次5回にわたって公開した。さらに昨年同様「イベントデー」でも天文グループの制作した番組の公開ができるよう準備を進めている。

北部生涯学習センター（北部中学）の天文室の大型天体望遠鏡を使った天体写真等、天文資料の収集を天文グループのメンバーが行った。

このように2年目の活動は1年目より厚いものになり、メンバーの中に自主的に天体写真などの資料を収集する動きも見られるようになった。

2 今年度の活動

今年度の活動は、例会・学習会、観望会、プラネタリウム、その他に4別される。

例会・学習会	観望会	プラネタリウム	その他
4月23日(日) ・日食、月食	宵29日(土)		
5月28日(日) ・夏と冬の満月の高さ	宵27日(土)		
6月25日(日) 講演会 宇宙を旅する星の光 大西浩次氏	宵24日(土)		
7月23日(日) ・ロケットの飛べる理由 ・なぜ火星は赤いか	宵29日(土)		
8月27日(日) ・月の表面しか見えない理由	宵26日(土)		
9月24日(日) ・ブラックホールについて	宵23日(土)		26日(火) 北部中学星空教室のサポート
10月22日(日) ・星の寿命 太陽の寿命	昼8日(日) 宵28日(土)		
11月19日(日) ・連星について ・変光星について	昼12日(日) 宵25日(土)	26日(日)サイエンスフェスタ ・今夜の星空	
12月24日(日) ・月のクレーターの原因 ・冥王星は準惑星	昼10日(日) 宵23日(土)		7日(木)北部中学星空教室のサポート 13日(水)未来プロジェクト「ふたご座流星群をみよう」のサポート
1月28日(日) ・立待月、居待月	昼14日(日) 宵20日(土)		
2月25日(日) ・銀河系の中心	昼11日(日) 宵24日(土)		

例会・学習会	観望会	プラネタリウム	その他
3月25日(日) ・星の数はどのくらい	昼11日(日) 宵24日(土)	18日(日) イベントデー ・今宵の星空 ・メシエ駅伝 ・惑星めぐり ・今夜の星座	

3 今後の活動

初年度を基本にした例会・学習会と観望会を軸に今後も活動していく。観望会については夜だけではなく昼間の星を見る会を継続する。プラネタリウムの天文グループによる公開を年2～3回は行っていく。そのほかに夜空は暗いほどよく星が見える、星が良く見えるということは光害が少ない、すなわち星空環境が良いことになるので、茅野市の夜空の暗さを調査する活動も予定していきたい。

活動の様子



定例学習会



プラネタリウム公開



観望会



昼の星を見る

5 天文グループ参加者

朝倉 昇	岩波 和久	岩波 佑奈	牛山 好友	大西 拓一郎	斎藤 雅光
斎藤 智子	田名網 修	田村 和巳	東城 幹雄	野崎 順子	葉玉 知子
藤澤 弥聡	楨原 圭司	楨原 妙子	両角 英晴	吉江 利彦	